

旧村川別荘だより

144

平成31年3月11日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：木村、田中、手嶋、今野
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました

3月の月例会が開催されました。今年もお雛さまの撤収と合わせて行いましたが、あいにくの雨で、撤収は延期となりました。

今年の「ひなのまつり」も、鷺見さんをはじめみなさまのご協力で、無事に終わりました。「ひなのまつり」開催期間中の来荘者は1,075人でした。



「三島海雲と杉村楚人冠」

今回は3月12日から杉村楚人冠記念館で行われる春の企画展「三島海雲と杉村楚人冠」に向けて二人の関係について紹介しました。

●三島海雲とカルピス

三島海雲は大阪にある浄土真宗の寺に生まれました。これからの世は教育が大切だと考えた母親の努力で学校へ行きます。15歳で西本願寺文学寮に入学。当時、仏教は廃仏毀釈やキリスト教の影響で窮地に陥っていました。そこで、仏教教育と一般市民を導くべく、僧侶にもより高度な教育を推し進めるべく文学寮ができました。その文学寮に入る予備校的な役割として「反省会」がありました。反省会はもともと教員や学生によって組織されていたサークルで、禁酒などを掲げて社会改革を目指して機関紙『反省会雑誌』を発行しました。その機関紙が東京に進出

した際、宗教色を抑えた紙面に変え、のちに『中央公論』となりました。楚人冠もこの『反省会雑誌』に寄稿していました。

文学寮を21歳で卒業後、日本国内で英語教師や大学への編入などするなか、周りの同級生たちが布教活動のため中国大陸へと渡っていく姿を見て、自身も日本語教師として中国へと旅立ちました。しかし、中国での生活は楽ではなく、現地で知り合った山林王の子土倉五郎と共に日本製品の取引を行う日華洋行を創業しました。この起業には一つ逸話があります。三島は生涯でただ一度しか自覚的に嘘をついたことがないと公言していました。その嘘は、この起業のためにお金を出資してくれる土倉の姉についたものでした。姉は三島にお金を預けるときに「このお金をすべて土倉と三島が使うという条件で渡す」と言いました。実は、三島が日本に帰国する際、土倉に大阪にいる友人に姉から渡されるお金の半分を渡して欲しいと頼まれていました。姉はよからぬ人にお金がわたる可能性を危惧していたのです。起業するための資金がなかった三島は「二人で使う」と嘘をつき、受け取ったお金の半分を大阪にいる土倉の友人に渡して大陸に戻り、起業しました。

はじめは、日本製品を売っていましたが、日露戦争になり、軍馬の取引のため初めて内モンゴルに行きます。そこで出会ったのが乳酸発酵食品（酸乳）でした。三島は幼いころより虚弱体質であったため、内モンゴルでも体調を崩しましたが、乳製品を食べると体調がよくなりました。その後、中国社会は辛亥革命により清朝が崩壊し、中華民国の建国をうけて、新たな事業をあきらめ、あわせて妻の病気の報を受けたのを機に無一文での帰国となりました。

内モンゴルで酸乳に出会った三島は、帰国後大阪で日本発乳酸菌ヨーグルトを食べると、自分が

食べた内モンゴルの乳製品の方が美味しいと思ったので、遊牧民が作る乳製品を商品化できないかと考えました。新事業の立ち上げのため、協力を求めたのは杉村楚人冠と土倉五郎の兄龍治郎でした。楚人冠の友人である医者長の長谷川基の病院の一室で乳酸菌開発を進め、「醗酵味」を発売しました。

醗酵味は注文が殺到するほどの人気になりましたが、原材料の牛乳が足りず生産中止になります。しかし、この失敗は、健康ブームのなかで醗酵味の人気は偶然ではなく、体に良い乳製品は必ず国民に受け入れられるという手ごたえになりました。

醗酵味の発売と同時に、醗酵味の副産物である脱脂乳の商品開発も課題となりました。あるとき、脱脂乳に砂糖を加えて乳酸菌醗酵したものが美味しかったので、さまざまな人に試飲を求めました。試飲をした当時小学生で後年芸術家となる岡本太郎は「幼い私にも飲ませて、真面目に「どうですか」と聞かれる。はじめて飲んだ乳酸菌飲料は、とろりと甘酸っぱい味で、嬉しかった」と回想しています。ここからも、相手が子どもでもどんどん意見を取り入れようとする三島の真摯な姿勢を見ることができます。こうして、ついに大正8（1919）年7月7日にカルピスを発売します。

●三島海雲と杉村楚人冠

二人の関係は師弟としてはじまりました。楚人冠は、三島が通う文学寮の英語教師兼舎監として在任していました。出会いは言い訳せず罰を受けた三島の正直さを楚人冠が見込んだことからでした。この事件は楚人冠日記の明治29（1896）年10月9日に出てきます。その後、明治30年5月から楚人冠の日記に度々三島の名前が登場し、英語を教えたり、一緒に山登りをしたりしたことが記されています。三島と楚人冠の年齢差は6歳。兄と弟のような関係でもあったのでしょうか。

その後、中国大陸から帰国した三島は醗酵味を起業のため、楚人冠に協力を求めました。三島も著書で「陰に陽に支えてもらった」と述べています。

●三島海雲が影響を受けた言葉

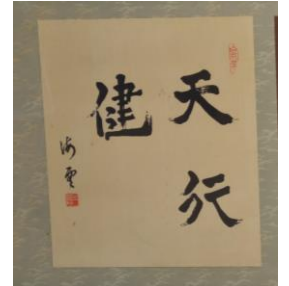
「Nature cannot be surprised in undress.」

この言葉はアメリカ人の思想家エマソンのエッセ

イの一節です。楚人冠が文学寮で2度出題しました。三島はこの意図を、学生たちの英語力を確かめるだけではなく、楚人冠の想い（いつ、自分の心中を誰かに覗かれても恥ずかしくない⇒自然のような人間になってほしい）として受け取っています。

「天行健（てんこうけんなり）」

これは、四書五經の易經のなかにある言葉で、天体の運行は常に規則正しく堅実であることを示したもので、三島は規則正しい生活のなかに真の健康があると考えて生活していました。三島はこの言葉を揮毫することが多く、杉村楚人冠記念館にも所蔵されています。



●おまけ

月例会でどっちが三島さん？となりましたが、中段で左側を見ている方が三島さんになります。画像はポスターでご確認ください！

連絡・意見交換など

●市民観桜会

4月1日（月）午前10時から午後4時まで（入場は午後3時まで）我孫子ゴルフ倶楽部で観桜会が開かれます。なかなか入れない我孫子ゴルフ倶楽部を見学できる機会ですので、ぜひ、お越しください！

●杉村楚人冠記念館の椿の話

杉村楚人冠記念館の椿は個人で収集した椿としては、種類も豊富でなかには珍しいものもあります。先日日本ツバキ協会の方もいらっしゃり、評価してくださいました。今後は、椿の名所としても広めていきたいですね。

●講演会のお知らせ

4月20日（土）13時から三島海雲の講演会を行います。要予約です。4月2日から予約受付を開始いたしますので、杉村楚人冠記念館にお申し込みください（*^-^*）（記念館電話：04-7182-8578）

次回の月例会は・・・

次回の月例会は4月10日（水）9時30分から旧村川別荘新館で開催します。

奥の展示スペースの展示替えに伴い、新しい展示の解説を村川夏子さんをお願いします。

